

# 就職座談会

## 就職座談会2020レポート ～就活ノウハウ集～

### 4年生パネリスト



Aさん  
大森ゼミ

広告会社



Bさん  
天野ゼミ

IT



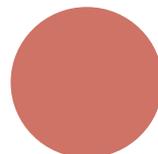
Cさん  
尾関ゼミ

IT



Dさん  
井上ゼミ

化粧品メーカー



Eさん  
肥後ゼミ

アパレルメーカー



Fさん  
和泉ゼミ

公務員

- A. 大森ゼミ所属のAと申します。私は広告会社から総合職として採用していただきました。  
 B. 天野ゼミのBです。業種はITで、職種はシステムエンジニアとして内定をいただきました。  
 C. 尾関ゼミのCです。業種はITで、職種はシステムエンジニアとして内定をいただきました。  
 D. 井上ゼミのDです。私は化粧品メーカーの総合職として内定をいただきました。  
 E. 肥後ゼミのEです。業種はアパレルメーカーです。  
 F. 和泉ゼミのFです。地元の市役所に内定をいただいて、事務職として働く予定です。

### 「就職活動はいつ頃、どのように始められましたか？ また、就職活動のおおまかな流れを教えてください」

A. 私は3年生の8月から始めました。まず、学内で行われていた就活セミナーで、ESの添削や集団面接の練習をし、そこから本格的に就職活動を意識し始めました。夏は3社のインターンシップに参加して、合同説明会に行きました。10月頃はゼミが忙しく、就職活動には全く手をつけられていませんでした。そして冬にも3社のインターンシップに参加し、そこから特別枠選考に進むケースもありました。多くは、3月1日からエントリーが始まると思いますが、私は就職活動を終える8月末までエントリーも続けていました。最終的には2社から内定をいただいて、納得して就職活動を終わりました。

B. 私も3年生の7、8月頃のインターンシップの合同説明会から始めました。その中で気になった3、4社のインターンシップに参加し、特別選考として1月末から説明会と選考会に参加しました。2月初旬からは選考が多くなり、私は4月の初めに2社ほどから内定をいただいて、納得して就職活動を終わりました。

C. 私が本格的に始めたのは、3年生の2月半ばです。その時は、マイナビが主催している合同セミナーに行きました。その後、学校の合同説明会や、企業の説明会を3月頃から受け始め、面接を受けていました。4月からは対面面接が新型コロナウイルスの影響でできなくなったので、就活エージェントなどを利用して、オンラインで説明会や面接を受けていました。6月からは対面面接が解禁され、実際に受けに行ったケースもありました。そして、6月半ばから内定をいただき始め、7月には5社ほどから内定をいただき、1社を決めて就職活動を終わりました。

D. 私は3年生の8月頃に、マイナビやリクナビの合同説明会に行ったことが始まりです。そこから、8月から1月にかけて会社を調べて、気になった会社の説明会やインターンシップに行きました。ですが、本格的に就活を始めたのは2月からで、自己分析・自己分析をして、実際に長所などの自己PR文を300文字で書き始めました。3月にエントリーをし始めましたが、あまり良いESが出せず、本格的に選考が進み始めたのが4月末から5月末にかけてでした。7月の中旬には多くの企業から内定をもらい始めて、そこで納得して就職活動を終わりました。

E. 私は3年生後期の10月頃に、気になっていたアパレル企業の合同説明会に、友達と参加しました。そこから企業について色々調べていましたが、本格的に就職活動を始めたのは次の年の1月頃からです。就職した会社は、元々アルバイト先なのですが、以前からその会社に就職しようと考えていたので、選考の説明会に参加して面接を受けました。アルバイトをしていたこともあり免除を受け、4月の半ばには内定をいただきました。

F. 私は公務員を目指していたので、3年生の5月から学内の公務員講座の教養コースに通い、週1、2回のペースで勉強をしていました。そして、夏頃に民間と公務員1社ずつインターンシップに行き、12月頃の就職座談会を受けてから、ESのガクチカや自己PRについて書き始めました。私は公務員を目指して勉強をしていましたが、4月頃に2つほど落ちてしまったので民間も受けました。7月に民間から4社ほど内定をいただいて、8月には本命の公務員から内定をいただいたので、納得して就職活動を終わりました。

## 「自己分析はいつ頃、どのようにされましたか？」

A. 私は3年生後期の12月頃です。自己分析のノートを作って、夢中になったことや頑張ったこと、苦勞したこと、それをどのように乗り越えたかを書き留めていました。面接では入社すればどのように活躍できるかということ伝えていたので、イメージしやすいエピソードをできるだけ多く書き出すことをしていました。

B. 私が行ったインターンシップの中で、自己分析のテストがありました。実際に自己分析をしていただける企画で、それが始まりです。何をすればいいかわからないという方は、私のように、そういったインターンシップに参加してみるのもいいと思います。他には、自分がしてきたことや、一番頑張ったことなどをノートにまとめていました。

C. 私は、ESを書くために2月頃に自分と向き合ってみて、何を授業でしてきたのか、何を一番頑張ったかを思い返していました。また、「R-CAP」を一度受けていたので、その結果を振り返って、自分がどのような性格なのか、それからどの職業が向いているのかを分析しました。それと、自己分析に関連するセミナーも受けていました。

D. 私は12月頃から、自己分析とマイナビにある他己分析用のアンケートを利用しました。2月には本格的に自己分析をして、ガクチカ、自己PRを書き起こし、友達やバイト先の先輩に見てもらうことで、自分の良さが伝わっているのか確認して、完成させました。

E. 本格的に始めたのは、2月から3月頃です。友達に誘ってもらった、学内の自己分析に関する説明会に参加したことがきっかけでした。他にもゼミ内で他己分析をしたり、昔からの友達に連絡を取り、他己分析をお願いしたりしました。

F. 私も友達やバイトの先輩、昔からの友達に、マイナビにある他己分析ができるアンケートを送り、お願いしていました。それを始めたのが12月頃で、12月末には完成させるようにしていました。3月頃からはキャリアセンターやゼミの先生に相談をして、自己分析を4月頃に完成させました。

## 「自分の強みについて、自分は他の人と比べてここが違うぞというところは何ですか。またその強みはどうやって見つけられましたか？」

A. 私の強みは、インプットとアウトプットをたくさんすることだと思っています。例えば趣味の話をするときに、私は「駅やお店に置いてある無料のパンフレットで、気になるものを集めることです」と答えていました。さらに、ただ集めるだけではなくて、授業の課題にこうやって活かしていました、ということも合わせて伝えていました。インプットとアウトプットをたくさんすることだけ言うと、おそらく同じように答える人はたくさんいると思いますが、何かエピソードを添えることで、他の人と差別化できるのではないかと思います。強みをどうやって見つけたかについてですが、私の場合はゼミやアルバイトなど、必死に取り組んだことの中から見つけることが多かったです。

B. 私が、他の人と比べてここが違うぞと思ったのは、忍耐力があるところです。忍耐力と言うだけでは他の人と被ってしまっていますが、自己分析のノートを読み返していると、自分が頑張ったことは、どれもすべて最後までやりきっている共通点を見つけました。学内で所属している委員会やアルバイトを、最後まで続けているといったエピソードを見つけることで、話の信頼度が高くなり、他の人も差別化ができるので、大事だと思っています。

C. 私が他の人と比べて違うなと思っているのは、他人だけではなく自分に対しても負けず嫌いなところです。エピソードとして、「ウェブデザイン演習」という授業で、学生の作ったデザインに投票する機会がありました。その投票で、1番多く票を獲得するために、自分が納得するまでデザインを作りあげたことがあります。そういった自分の中で1番大変だったこと、授業やゼミで印象深かったことを思い出して、それについて深掘りしていました。話す時には、1番をとるためにどのように工夫したかも、具体的に伝えていました。

D. 私の強みは、高い目標に向かって挑戦する向上心と答えていました。私自身、甲子園球場で売り子のアルバイトをしている時に、目標に向かって挑戦した経験があったので、そのエピソードをわかりやすく数字で表して、他の人と違うような工夫をしていました。大学2年生の頃から、強みは向上心や挑戦する心だと言うために、アルバイトの売り子をしている中でエピソードを作っていました。つまり、エピソードから強みを見つけるのではなく、自分の言いたい強みを意識して生活し、エピソードを作っていました。

E. 私の強みは、接客の時に身に付けた応対力と答えていました。働いている中で、実際にお客様から接客を褒めていただくことがあったので、自分で見つけることができました。

F. 私の強みは、積極的に行動する力があると答えていました。プロスポーツチームの学生広報団体に参加しているのですが、そこで与えられた役割だけでなく、自分で考えて行動することを強みとしてアピールしていました。このエピソードは、先ほども言った友人などからの他己分析で1番多かった意見だったので、見つけることができました。他にも愛嬌や笑顔もアピールポイントだと思っていたので、話すだけでなく態度で示すようにしていました。

「業界研究、企業研究について具体的にどのように調べましたか？ また、業界は絞って受けていましたか？」

A. 私はインターンシップに行ったり、会社のIR資料を読んだりしながら情報収集をしていました。「業界地図」という本に、企業について詳しくまとめられています。また、私は広告業界を受けていたので、宣伝会議が出している「広告界就職ガイド」という本を読んで、会社や仕事内容についての理解を深めていました。私は、広告とITの2つの業界に絞って受けていました。

B. 私はインターンシップの合同説明会で、幅広い業種の説明を受けていました。また、インターネットで調べたり、友達が様々な職種の説明会に参加していたので、そこから話を聞いたりして、情報収集していました。業界は絞らず、幅広く興味のある会社を受けていました。

C. 私は、IT業界に絞って受けていました。どのような業界なのかインターネットで調べていました。企業研究については、気になった企業のホームページから、どのような仕事をしているのかなど隅々まで見ていました。分からない単語があれば、自分が理解できるまでインターネットで調べて、どうしても分からない場合は、その企業の面接や説明会で質問していました。

D. 私は「業界地図」という本で、業界研究をしていました。この本から、その企業の立ち位置や動向を見ることができたので、参考にしていました。業界地図で気になった企業をマイナビやリクナビで調べ、実際のホームページを見て、企業研究をしていました。業界はIT企業と日用品・化粧品企業から絞っていました。実際にESを書き始め、その会社・業界で何をしたいか考えると、IT業界には興味が無いことに気づき、最終的に日用品・化粧品、リフォームやインテリア業界にも視野を広げ、その業界を受けていました。

E. 業界に関しては、アルバイトとしてアパレルで働いていたので、その業界しか初めから考えておらず、それに絞って受けていました。業界研究については同じ職場の社員の方や、同じ業界を目指す友人に話を聞いて、情報を得ていました。

F. 私は、インターンシップに行行って実際の職場の雰囲気を感じたり、インターネットで検索をしたりして、情報収集をしていました。インターネットでは「みんな就」「ワンキャリア」を利用していました。

「いろいろな業種がある中で、この業界に進もうと思った最終的な決め手は何ですか？」

A. 最終的な決め手は興味があるからです。少しでも自分がおもしろいと思える、好きになれる業界を選びました。

B. 私もその業界が好きだから、その仕事をしてみたいと思ったので選びました。私はもともと映像に興味があって武庫川女子大学に入学しましたが、1年生の頃に受けたプログラミングの授業でプログラミングに興味を持ち、それに携わる仕事がしたいと気づきました。

C. 私は自分のスキルが活かせる仕事に就きたいので、授業で習ったプログラミングを活かせれば良いなと思いました。また、IT業界には将来性があるのではないかと考えていたので、この業界に進もうと決めました。

D. 憧れの業界だったので選びました。私は化粧品業界で、商品企画やその商品を広報として世に出したい、という想いがあったので、それができる会社だというのが決め手でした。お給料や勤務地、福利厚生などは自分の中で基準はありましたが、これから長い人生で働き続けることを考えて、1番好きなことだったら辛くても頑張れると思いました。

E. 私はやりたいことを1番に考えて選びました。アルバイトの経験を経て洋服を介した接客の楽しさや、お客様の生活に寄り添ったワードローブの提案ができた時の喜びを実感して、働く楽しさを見出したので、アパレル業界を選びました。

F. 私は、福利厚生や安定性を求めて公務員を選びました。また、両親からも納得してもらえたので決め手となりました。

「企業を選ぶ上で何を重視しましたか？ また、そう考えた理由は何ですか？」

A. 私は、長く働けるかどうかを考えて選びました。それから、社内の雰囲気や、自分を高く評価してもらえるかどうかにも重視しました。私が入社する会社の面接では、一問一答や形式的な質問をするというよりも、自分の中身を引き出そうとするような質問があり、自然な会話ができました。「自分の内面を評価してもらえそうだな」と印象深かったこと、面接で見た人柄や雰囲気も決め手の1つになったと思います。

B. 私は、最終的に自分のやりたいことができるかが決め手でした。やりたいことができないのは、ストレスに感じてしまうのではないかと思い、自分のやりたいことや、意見の通りやすさ、面接などの雰囲気を選びました。

C. 私は自分のやりたいことをメインに見て、その上で雰囲気や人柄を見ていました。入社後に自分の求めている雰囲気でない、自分のできるようになるスピードが変わるなど思っていたので、そこが大事なかなと思って見ていました。

D. 最初は福利厚生と給料、社風を意識していましたが、無意識のうちに本当に自分のやりたいことができるのかということに重視していました。最終的には、これから何十年も働いていく時に、自分のやりたいことができる環境なのかを意識しました。

E. 私は職場の雰囲気、人柄を重視していました。実際にアルバイトをしていたので、他の店舗にヘルプで行った時、働いている人の人柄がすごく良かったというもあり、それが決め手になりました。

F. 私は、福利厚生と転職がないことを重視していました。今は、女性が働きやすい環境が整えられていると言っても、やっぱりまだまだ整っていないことも現実かなと思っていますので、将来家庭を持って、子どもができた時のことも考えて、産休や育休が取りやすいような職場につけたらなと思っていました。

「武庫川女子大学の東京センターを利用した感想を教えてください」

D. 東京センターが東京駅の近くにあるのでアクセスが良く、新幹線を利用する時に面接が終わってから新幹線出発までの間に仮眠をしたり、パソコンがあるのでESを作ったりすることができて快適だなと思いました。

武庫川女子大学 東京センター *check*

新横町ビルの最上階 14F に位置し、皇居や新宿などが一望できます。就職活動に向けて心身のコンディションを整えるスペースとしてはもちろん、卒業生の方々も交流の場やワークスペースとして活用することも可能です。

首都圏での就職活動支援として、交通案内や個別カウンセリングを行ってもらえます。また旅の中継地点として荷物の預かりや、観光案内の相談にも応じてもらえるので、ぜひ活用してみてください。



「面接対策はどのようにされましたか？ また、実際の面接でどのような質問をされましたか？」

A. 最初は、夏に参加したキャリアセンター主催のイベントで、集団面接の練習をして互いに評価しあうということをしました。そこで自分はこういう風に見えるんだとか、人の面接を見て感じたことから、自分はこうしてみようとか、客観的な視点が身についたと思います。それから、自己紹介や志望動機といった、必ず聞かれるような質問に関しては、コンペティションの発表の時と同じくらいの完成度になるまで、家で一人の時に話しながら練習していました。実際の面接でも、「すごく練習してきたんですね」と、評価していただけることもありました。話す内容もちろん大事ですが、どれくらい準備してきたのか、どれくらいその時間を割いてきたのか、というような努力する姿勢も面接の場で伝えられると思います。変わった質問だと、私は最終的に広告業界とIT業界を受けていたのですが、その2つを受ける中で、明確な線引きはしているかどうか、広告業界とIT業界を全く別々だと考えて受けているか、というような就活する上での自分の考え方を問われるような質問がありました。

B. 内定をいただいた企業は、就職支援にすごく積極的な企業だったのですが、そういった積極的な企業が開催しているイベントには、よく参加していました。参加者がお互いに面接しあったり、就職支援センターの人に実際に面接してもらって、どういうところが良かったか、悪かったかというのを教えていただきました。面接の内容としては、みなさんが想像するように、大学生活の話が聞かれることが基本的に多かったです。しかし企業によっては、中学や高校の話も深く聞かれることもあったかと思います。変わった質問としては、1社だけ「あなたを動物に例えると何ですか」と聞かれて、とっさに犬と答えました。このような変わった質問も企業によってはあるかなと思うので、準備しておくと思います。

C. 面接対策は、兄弟に面接官役になってもらって、ひたすら練習していました。実際の面接では、自己紹介や授業やゼミについて、ガクチカ、強み・弱み、志望動機をよく聞かれました。

D. 私は「ワンキャリア」というアプリでその会社を調べて、過去に面接で聞かれた質問内容をチェックし、その質問内容に対する答えを自分なりに書き起こして用意しました。その質問に対する答えが論理的だったり、筋が通っているかというのを意識して、自分なりに添削をしました。それから内容を何回も読んで練習し、面接に挑みました。よく聞かれた質問としては、就活の軸、自分の強み、志望動機、ガクチカ、この会社でやりたいことを聞かれました。ガクチカだったら、何でそのことを頑張ったのか、その時に困難だったことは何か、というのを多く聞かれたので、1つのガクチカを用意するにあたって、自分なりに深掘りをしていくことが大事だなと思いました。

E. 私は同じ店舗に1、2年目の社員の方がいらっしゃったので、実際の面接で聞かれたことを教えていただいて準備しました。また、インターネットで実際にアパレル業界の面接で聞かれたことも、ピックアップして書き出しました。例を出すと、店舗見学という形で実際に店舗に向いて、その地域のお客様に合ったレイアウトや、ブランドの雰囲気をも自分なりにまとめるということを実践しました。

F. 私は、キャリア対策の500円で受けられる講座や、公務員講座で面接対策をしていました。集団面接では、基本的に自己PRやガクチカ、志望動機が多く聞かれるなと感じました。個人面接では、その企業の課題や魅力、自己PRやガクチカの深掘りも多かったです。思いがけない質問としては、「自粛期間中は、何をしていたか」「自粛期間を通して、これから学校というものはどのような方向性で進めばいいと思うか」というような質問がありました。

「面接の経験をして、これだけは伝えておきたいという面接のコツを教えてください」

A. 自分らしさが伝わる話し方を身に付けることです。そのためには、まず自分の話し方を知ることが大事だと思います。実際にリモートと対面の面接を両方受けてみて、面接官が受け取る私の第一印象は、リモート面接と対面面接では、意外にもあまり変わらないという風に感じました。自分の話し方を知るためには、話しているところを誰かに見てもらったり、動画に撮って客観的に聞いてみたりすると、自分の話し方の特徴がわかると思います。あとは自然に話せるようになるまで、ひたすら練習してください。

B. 基本的なことだと思いますが、やはり相手の目を見て、しっかりと話し方が大事かなと思います。みなさん面接の内容をたくさん考えるとと思いますが、せっかく考えた内容も相手に伝わらない意味がないので、しっかりと相手の目を見て、はっきりと伝えようという意思を持って話すことが大事かなと思います。実際に企業の方から、「しっかりと顔をあげてハキハキと話す所が良かったです」と評価をもらったので、どうしても緊張してしまうと思いますが、自分で意識して顔を上げて、いつも話す声の大ききの1.2倍くらいを意識して話していくと良いと思います。

C. 私は履歴書に書いてあることについては、暗唱できるくらい準備していました。また、深掘りされてもしっかり答えられるようにエピソードを用意していました。あと、質問に答えるだけでなく、その面接官の人と会話することを心掛けていて、気になった部分は面接中でも積極的に質問していました。

D. 私は、笑顔でハキハキと話すことが重要だと思いました。あとは聞かれた質問に対してだらだら長く話すのではなく、簡潔に話すことが重要だと思います。

E. 考えていなかった質問をおそらく受けると思いますが、とにかく返事だけはしっかりハキハキとすることが何よりも大事だと思います。アパレル企業は接客が特に大事なので、どんな時でも笑顔でしっかり対応できればいいと思います。

F. 私は、面接官の言っていることをちゃんと聞くことが大事だと思いました。自分が考えてきた自己PRなどをしっかり伝えるというよりも、面接官の質問に対してちゃんと回答ができていくかということ意識していました。

「情報メディア学科は企業からどんな印象を持たれているか、就活中に感じたことがあれば教えてください」

A. 何を専門的に学んでいるのか、具体的なイメージが分からないというような印象でした。内定先の会社には、同じ学科の先輩方が何人かいますが、ゼミの専門性が違ったということもあって、面接ではゼミで何に取り組んできたのか、その内容について詳しく聞かれました。それから、幅広く学んだ上で、最終的に自分は何がしたいのか、何に興味を持ったのかについて質問されました。情報メディア学科は、良くも悪くも幅広く学習するというイメージがあるなと感じたので、臨機応変に答えられるように準備しておくいいと思います。

B. 私は、面接の時に今までの成績表を持ってきて欲しいと言われることが多く、その時に授業名を見て、何の授業を受けているのか、これは何のための授業なのかと聞かれることが多かったです。いろんな企業から「広告メディア演習」の内容はよく聞かれました。なんの授業だったのか分からないことがないように、しっかり授業を受けていたら大丈夫だと思います。

C. 私はIT業界を受けていたので、プログラミングをしている学科と思われることが多かったです。また、企業と学生の交流会で武庫川女子大学に来てくださった企業も受けていたので、どういう学科が分かっていたらいい人もたくさんいました。

D. 私は、パソコンを扱えるイメージを持たれているなと思いました。しかし、マーケティングや広告について勉強していると言ったら、話に食いついてもらえた時もありました。また、資格欄にITパスポートと書いてあったので、学科の話よりもITパスポートはどのような資格なのか、よく聞かれました。

E. 機械に強いのか、どのようなことを学んでいたのか具体的に聞かれました。私自身が制作系のゼミなので、何を作っていたのか興味を持っていただけて話を広げられたので、制作系のゼミだったら制作物の話の準備をしてもいいと思います。

F. 「情報メディア学科ってどんな学科なの？」と聞かれることが多かったです。また、情報メディア学科で取得できるITパスポートや色彩検定にも、興味を持っていただくことが多かったです。

「興味を持っている職種以外にも見学や面接に行きましたか？ また、そこで参考になったことがあれば教えてください」

A. 私の場合、早い段階から広告業界を志望していましたが、見学は食品、電子部品、旅行会社などいろんな業界に行きました。幅広く受けることで、知らなかった可能性を発見でき、適正がなかったらなかったで、その理由を知ることでもできるので大事だと思います。また、広告業界と別の業界の説明会に行った時、食品会社の方から「景気が悪化すると、会社が最初に削る費用は広告費だ」という話を聞いて、当時自分にとっては他の業界から見た広告業界は、こういう風に見えるのかと勉強になりました。ギャップや現実、そういったいろんな情報を得られるので、幅広く視野を広げて就職活動を行うことは大事だと思います。

B. 私もインターンシップや見学、面接は他の職種も参加していましたが、志望の職種以外を見るのは有効かなと思っています。職種を絞っていても、他の職種に行って「自分はこういうのもできそうだな」とか「こういうのも楽しそうだな」という、他の可能性も見出せると思っています。もし、絞っていた職種が少し難しそうと思った時に、じゃあこっちの職種を考えてみようというきっかけにもなると思うので、インターンシップは職種を絞らずに行ってみるのもいいかなと思っています。

C. 私は基本的にIT業界を受けていましたが、一度販売系の企業を受けました。そこでは自分が既に持っている技術について確認されるというより、人柄をよく見られていました。面接でもどれだけ自分について理解してるか、自分がどのように見られているのか、という質問をされたので、業界によって見られるところは様々なんだと別の業界を見て気づきました。

D. 私は、少し興味のある業界には行きました。実際に説明会やインターンシップに行くことによって、思っていたより興味のある仕事ができることや、考えていたよりも興味がなかったなど、自分の正直な気持ちを知ることができ、後々の自己分析にも繋がっていくと思います。少しでも興味があたら、色々な業界の説明会に参加して欲しいなと思います。

E. 私は早い段階からアパレル業界に決めていたので、インターンシップも面接も、アパレル業界のみ受けました。

F. 私は農業協同組合と、学校事務と公務員の3つに絞っていたのですが、制服を作る会社や印刷会社も受けました。しかし、本気度が伝わらなくて落ちました。また、インターンシップや説明会で他の企業の説明を受けましたが、やはり自分に合っているのは目指している職種だということも、改めて感じることができました。

「インターンシップに行くと周囲との差をつけられると聞きますが、ご自身や周りで参加して良かったなと実感されたことがあれば教えてください」

A. 参加しました。特に少人数で名札が配布されていたり、席が決まっていたりするインターンシップでは、会社側が学生の名前を控えている場合が多いので、アピールのチャンスになると思います。実際に夏と冬のインターンシップに参加した会社では、特別に社員の方と話す機会が設けられたり、筆記試験が免除されたりといったケースもありました。ですがここで注意して欲しいのは、特別枠選考に入ったからといって、決して油断しないことです。私の場合、二次面接で落ちたので、保険を甘くみないことが教訓になったかなと思います。

B. 私もインターンシップに参加しました。私が内定をいただいた企業は、社内の雰囲気や実際に働く場面を見せてもらうことができました。職場を見せてもらえることで、自分が実際に就職した時に働いているイメージがつきやすいと感じました。実は、私が4月に就職先を決めたのも、それが要因になっています。本当は、4月以降も就職就活を続けるつもりでしたが、コロナウイルスの影響で全部オンラインになり、実際に訪れた企業の印象が、オンラインになると全然違ってました。それだったら、インターンシップに行った中で、自分がいいなと思った会社に決めようと思いました。なので、実際にインターンシップに行くというのは、大事なかなと思います。

C. 私は参加しませんでした。内定までの期間だったり、業務内容の理解の差はあると思いますが「参加すればよかった」と、惜しむこともありませんでした。

D. 私は1dayのインターンシップに行きましたが、振り返ってみるとあまり意味はなかったなと思いました。そこで基本的な社会人のマナーを学べたり、大手だったらインターンシップに行く前にESを提出しないといけないので「就職活動を始めるぞ」という気合いだけは、つけることができたと思います。なので、インターンシップ0より1、2個行くのがいいと思います。ですが、IT業界に行きたい方は行った方がいいなと私は思いました。私の周りでIT企業に入った友人は、ほとんどインターンシップからの特別枠で採用が決まっていたので、職種を決めている人は行くこと有利だと思います。

E. 私は内定をいただいた企業ではない、別の企業へインターンシップに行きましたが、そこで職場の雰囲気を見ることができて良かったと思います。友人もインターンシップに行って、周りの意識の高さに感化されたと言っていました。

F. 私は民間企業と公務員、自治体のインターンシップに行きました。民間企業では、ディスカッションや知らない人とミーティングをするといった内容で、集団面接の経験値を上げるために受けました。私はインターンシップで恩恵を受けたというようなことはありませんが、友達はインターンシップ時の反応が良かったことで、自粛期間中にZoomを利用して企業と交流できる機会があったそうで、企業側もインターンシップで学生の人柄を見ていたようです。

## 「就活のために利用していた施設やイベントがあれば教えてください」

A. キャリアセンターが開催している、5日間ある就職活動の講座を受けていました。その他には、マイナビなどが主催の合同説明会を利用しました。周りでは、「ジョブプラス」に登録していた人が多かったです。

B. 私は、学校にあるキャリアセンターのカウンセリングコーナーに行きました。自己分析で悩んだことがあり、その時にカウンセリングして下さった方々が、話したエピソードの中での強みや弱みを客観的に教えて下さったので、良かったなと思います。カウンセリングコーナーは予約制なので、予約を忘れないように気をつけて相談してみてください。

C. キャリアセンターやマイナビ、リクナビが主催するセミナーと、就活エージェントを利用していました。キャリアセンターは、自分の悩みを相談するために利用して、最終面接はどのような気持ちで受けに行ったらいいか、内定をいただいた会社の中からどうやって決めたらいいかなど、不安な部分を相談するために通っていました。

D. 梅田にある就活塾と、学校のキャリアセンターを利用しました。また、「就活会議」「ワンキャリア」というアプリ、「みんな就」というサイトを頻繁に利用していました。このアプリとサイトでは、先輩たちのESや、面接で聞かれたことを見れるので参考になりました。他にもTwitterの「take」という人だったり、YouTuberの「Utsuさん」をフォローして、論理的な文章の書き方や、人事が面接の時どうしているのか、最終面接はどのような気持ちで挑むべきかを、リアルな目線から教えてくれる2人の言葉を参考に、就職活動をしていました。

E. 学内で行われた就職に関する説明会に3回ほど参加したり、キャリアセンターのカウンセリングコーナーに何回か相談したりしました。カウンセリングコーナーは予約が必要で、就職活動直前になると予約で埋まりやすいので、早めに利用するのいいと思います。

F. 私も、カウンセリングコーナーはよく利用しました。また土曜日に行われている、面接の練習や自己PRを考える講座にも参加しました。私は公務員を目指していたので、天王寺にある「UMEDAI」という説明会にも参加していました。他の方の話にも出ましたが、私も「ワンキャリア」「みんな就」は利用していて、YouTuberの「Utsuさん」も見ていました。また、就活YouTuberの「エルト」さんもよく見ていました。

## 「学業と就活の両立はどのようにしていましたか」

A. 就職活動をする日は、他の予定を入れないようにしていました。例えば、授業日の前後に面接が入った場合は、準備をする時間を確保したいので、授業を欠席することもありました。言いにくいかもしれませんが、正直に話すと周りも受け入れてくれると思いますし、支えてもらえると思うので、無理をしないことが大事だと思います。

B. 私も就職活動の日と学業の日は、区切りをつけていました。複数の面接と授業が重なってしまい、体調を崩してしまったことがあるので、休む日をつくることも大切だと思います。

C. 私は週に2日授業があったので、残りの平日3日を就職活動にあてていました。土日はちゃんと休むようにしていました。

D. 私も授業が週に2回だったので、それ以外は基本的に就職活動に力を注いでいました。その中で、毎日ESの提出だったり面接の対策があったので、土日も関係なくずっと就職活動のことを考えて過ごしていました。

E. 私は、説明会や面接が、3年生が終了した春休み期間にほとんど行われていたので、特に両立が厳しいということはありませんでした。

F. 私は両立ができなかったとっていたので、2年生までにはできるだけ単位を取って、3年生は前期も後期も10単位ほど履修し、4年生はゼミにだけ行っていました。勉強や面接対策は、土日関係なくずっとするようにしていました。

「就活中に感じた挫折と成功(失敗談と成功談)を教えてください。  
またそれらを踏まえてどう改善すれば良かったという点があれば教えてください」

A. 失敗談は、エントリー数が少なかったことと、特別枠選考を甘く見ていたことです。やりすぎがちょうどいいくらいの気持ちで望んでいれば、面接でも気持ちに余裕が持っていたんじゃないかなと思います。成功談は、最後まで諦めなかったことだと思います。就職活動が早く終わることが良い訳でもありません。私は8月末まで粘ったことで、採用枠が1名の会社から内定を受けることができたので、諦めなくて良かったなと思っています。多く内々定を獲得するよりも、納得して内定を得ることの方が大事だと思います。

B. 私の失敗談は、もっと事前に説明会に行けば良かったと思うことです。3月に説明会を中心に行こうかなと思っていましたが、新型コロナウイルスの影響でオンラインになってしまい、会社の雰囲気などが分かりづらくなってしまった経験があります。いつ何が起るかわからないので、早め早めに行動することが大事だと思います。成功談としては、インターンシップを早めにしていたことです。1月に特別枠の選考を受けることができ、自分の行きたいと思っていた企業に内定をいただけたので良かったです。また、授業やゼミ活動で制作系の講義を受けている場合、動画や画像を撮影しておくことと実際に見せながら説明することができるので、より詳しく自分が何をしてるのか伝えやすくなると思います。

C. 私の失敗談は、面接対策をしっかりとしていなかったので、一次面接が全く通らなかったことです。苦手だなと思っていても、向き合って練習することが大事だなと思いました。成功談は失敗を基に、準備と練習をして受けると、面接がスムーズに進むようになったことです。

D. 私の失敗談は、就職活動自体をすごく甘く見ていたことです。出遅れた感があって、ESをあまり出さず大手企業ばかりを受け、3月中には持ち駒がなくなっていました。また、4月頃まで毎日のようにESを出し、焦りと不安でどこでもいいやと投げやりになってしまいました。大手だけでは、絶対に無理だという気持ちがあったので、その大手の子会社を調べて受けたりしていました。なので、3月の間にたくさんESを出すことがすごく重要です。3月中に20社以上出した友人もいたので、それくらい頑張っておくと、後々楽になっていきます。私たちの学年では、3月が重要な時期だったのかなと思いました。

E. 私の失敗談は、面接で自己PRを聞かれ、準備して行ったのに、いきなり「2分ぐらいで自己PRください」と言われて焦ってしまったことです。自己PRに関しては、つめて考えた方がいいかなと思いました。成功談としては、3月1日が就職活動解禁日になっていますが、その前にエントリーできる場所もあるので確認しておくべきです。自分の行きたい企業は、早めからチェックしていた方がいいと思います。

F. 挫折は、最初に受けた企業を3つ連続で落ちてしまい、就職活動って難しいなと感じたことです。私は公務員一本でいこうと思っていたので、面接もあまり気合いを入れず、勉強ばかりしていました。面接は場慣れが一番だと思ったので、本命の企業を受ける前には、似たような企業を受けるようにすることが大事だと思いました。

「就職活動といえば大変なイメージが多いと思いますが、  
その中で楽しかったこと・嬉しかったことがあれば教えてください」

質問タイム①

A. いろんな業界を見に行っていたので、「こんなことあるんだ」と知らなかったことを知ることができてすごく勉強になったと同時に、楽しかったなと思います。また、自分の場合はゼミでやってきたことが役立ちました。例えば、私はプレゼンテーションをすることが苦手だったので、そういったことを克服できるゼミに入ったこともあり、そこで培ってきた力が面接の場でも活かしたなと思ったので、努力が報われたと思える瞬間は、自分自身すごく楽しかったです。

B. 自分がやってきたことや、自分の制作してきたものを見せた時に、面接官に褒められた時はすごく嬉しかったです。

C. 私、知らない世界を就職活動を通して見れたこと、自分のやってきたことが褒められたこと、面接が通りはじめた時も嬉しかったです。他には、人事の方と他愛のない話ができて、仲良くなれたことです。

D. 私は、時間をかけて作ったESが通ったり、自分で用意して考えた内容を、面接の時に「あなたの誠意が伝わった」と言われたりした時はすごく嬉しかったです。

E. 私、人事の方に「今の喋り方良かったよ」と、言ってもらえたことが嬉しかったです。また、一緒に面接を受けた全く知らない友達と、友達になって交流できたことが楽しかったです。

F. 私は、楽しかったことは正直無く、毎日10時間は勉強していたので「早く就職活動終わらないかな」と、思っていたのが本当の気持ちです。ですが、受かった時はもちろん嬉しかったし、緊張しやすいタイプでプレゼンも苦手でしたが、就活を通して、今日こうして前で喋れるくらいまでになれたことが、後々思えば達成感や、やりがいに繋がったと思います。

## 「2年生のうちにしておくべきことや、意識していたことはありますか？」

### 質問タイム②

A. 2年生の時は、就職活動を意識した行動は全くしていませんでした。ですがその分、ゼミに夢になっただけで取り組んでいました。最終的に就職活動で話すことも、そういった学生生活で頑張ってきたことを会社でどういう風に活かせるか、ということ話すので、今やっておくべきことは目の前にあるゼミのことであったり、授業を一生懸命取り組むことだと思います。

B. 2年生の時は、文化祭の実行委員会を頑張っていて、就職活動に関しては、何も考えていなかったです。ただ大切だなと思うのは、面接では今までやってきたことや、大学生活についてよく聞かれるので、受けている授業やバイトなどを頑張っている積極的に取り組むことが、1番大事なかなと思います。

C. 私も2年生の頃は何も考えず、特にしていたことは無いのですが、後悔していることもあります。喋れるエピソードを作っておくことが大事なので、授業に対してもゼミに対しても真面目に受け、その中で楽しい、夢になれるものを探すべきだと思います。私は、ゼミに入ってから、こういうことしたいなというのを見つけたので、これから楽しいなと思えることを見つけて欲しいと思います。

D. 私は2年生の時から少しだけ就職活動を意識していて、アルバイトの時、自分で目標を作ってそれを達成することで、自分が将来「強み」として言えるように意識していました。ゼミでも、やること一つ一つを意識することで、学生時代頑張ったこととして話すことができたので、何事にも目標を持っていれば、就職活動に役立つと思います。

E. 2年生の頃は何も考えていなかったのですが、やはり単位は取っていた方がいいと思います。4年生になってから単位をたくさん取ろうと思うと大変なので、今のうちにできるだけ単位を取っておく方が楽だと思います。

F. 私は、1年生の頃から長期休暇に必ず資格を1個取るということを決め、学校の勉強だけでなく、「継続力がある」と言えるようなエピソードを作るようにしていました。面接では、自己PR、志望動機、ガクチカ、他に何をしていましたか？と聞かれることが多いので、エピソードは4つほど用意しておいた方がいいと思います。また、色彩検定のUC級は資格が取りやすい上に、面接官から興味を持ってもらえるので、おすすめです。

## 「オンラインでの面接で大変だったことがあれば教えてください」

### 質問タイム③

A. 私の場合、面接を受けた回数が少なかったのですが、一次面接はリモートが多く、最終に近づくにつれて対面になるパターンが多かったと思います。私はリモートと対面で、思いっきり違った印象が伝わってしまったということは意外と無かったです。リモートだったらカメラを見ながら話す、対面だったらマスクをしないとイケないので表情が隠れる、そういった話し方の違いはあると思いますが、声の伝わり方や話し方はどちらも一緒だと思うので、話す準備をすることに時間をかけることが面接のコツなのかなと思います。

B. 私は、面接を受けたタイミングが1月や3月が多く、自粛期間が始まる前に全部受けしまったので、オンラインですることはありませんでした。後に振り返ってみると、もしもパソコンでの面接だったら、回線の状態によって色々影響が出ていたかもしれないので、対面での面接で良かったなと感じています。

C. オンラインと対面の比率は半々でした。リモートが増えてから大変だったことは、表情が分りにくいことと、伝わっているか分からないことです。また、他の人と会話が無かったり、画面を見たらいいのかわかるとかカメラを見たらいいのかわからなくて戸惑ったりしたこともありました。

D. 私はオンライン面接の方が多く、最終面接で対面ということが多かったです。オンライン面接では、時間になるまで面接の練習ができることがいいなと思っています。Webカメラの端に、自己PRなどの答えを置いたのが、自分の中で心の支えになっていました。オンライン面接の時に、画面上でも会っているかのように、笑顔でハキハキと大きい声で喋っていたら、「元気な印象が伝わった」と言ってもらえることが多かったの、オンラインでも元気に笑顔で話すことがポイントだと思います。

E. 面接は全て対面でしたが、説明会が全てリモートでした。グループディスカッションをした時に、タイムラグが起きる場合もあり、発言力や積極性が失われやすいと人事の方は懸念されていました。なので、いつも通りはっきり発言をすると印象が良いと思います。

F. 私は2割くらいがリモートでの面接でした。面接でのトラブルとしては、私はパソコンが古かったので相手の方とリモートで繋がらなくなったことです。事前に人事の方のお名前と電話番号をいただいていたので、なんとか対処できました。そういうトラブルがあっても、面接を通過できたので良かったと思います。また、オンラインでの集団面接はすごく難しかったイメージです。